

勤務先は大阪府警本部！？ (2022年6月現在)

新卒で関西テレビに入社してから約4年間の広報部（番組宣伝や企業ブランディング担当）での勤務を経て、一昨年9月から報道部で記者として働いています。昨年からは、大阪府警が関連する事件や事故を特に担当して取材する記者に配属されました。（通称「府警担当」）大阪市中央区にある大阪府警本部内には記者クラブというエリアがあり、新聞社とテレビ局がそれぞれ小さな部屋を持っていて、府警担当になってからは私のデスクもそこにあります。

関西テレビの府警担当は5人のチームです。管理職的役割を担うキャップ（40代）、記者のリーダー的役割を担うサブキャップ（30代前半）、あとは私と、同い年の男性記者と、2年目の若手男子記者で構成されています。

家族のような府警チーム一丸で、どこよりも正しく早い情報を届ける

当たり前ですが、ニュースは情報です。特に事件事故に関する情報は、量が多く、刻々と変化します。例えば、事故だと、「発生日時・通報内容・加害者（被害者）の氏名・年齢・車種・状況・ケガなどの容体（1時間後には変わるかも）etc」このような情報をどこよりも正しく早く届けることで関西テレビのニュースができていきます。

そのため、チーム内のチャットは一日何百通にも上り、細かいことでもとにかく全て共有します。一人の力は限られていますが、チームで共有していると、漏れを防いだり新しい視点を持つことができたりします。家族並みにお互いを信頼し、助け合い、仕事をしているなど日々感じています。

一日2万歩歩く日も。とにかくご時勢に反した超アナログ仕事

具体的な仕事は？といいますが、事件が起きたら一日中防犯カメラ映像を探し歩き回り、周囲の住人に聞き込みをし、容疑者の関係先に何時間も張り込み、警察署や警察官の元に直接出向いて情報を拾いにいき… とにかくアナログです。

私は非効率なことがとても嫌いで、府警担当に配属された当初は、「無駄ばかりだ…」と抵抗感がありました。

しかし、悲惨な現場、強い悲しみや怒りを持った人、会ってみると印象が180度変わる人など、アナログが故に、とにかく「生」の体験ができます。生々しい出来事に日々心を動かされ、「伝えたい！」とより強く感じている自分に気が付きました。

“やりたいこと”探し中のあなたへ

就活において誰もが一度は考える「やりたいこと」ですが、見つからない人も少なくないのではないかと思います。かくいう私もそうで、就活の前にテレビ局でアルバイトして、やりたいことを模索しました。しかしやりたくないと思っていた仕事の中からやりたいことを見つけられることもあります。探し続けていると、「あれ？なんかこれはやりたいかも…」ときっとなるはずです。応援しています。